

戦争情勢下の労働組合復権の闘いを！ 外注化・JR大再編・廃線化、労働政策の 転換攻撃と対決し26春闘へ！



動労千葉を支援する会 ニュース

2026.1.17
413

動労千葉を支援する会事務局

千葉市中央区要町2-18 DC会館

Rx 0476(202)78220

メールアドレス info@doto-shien.site

〒口座番号 0015013192036

動労千葉は1月10日、DC会館において組合員・OB会・家族会、共闘関係の仲間130名の参加で新年団結旗開きを開催した。

関委員長は、年明け早々からの世界戦争情勢にたいして動労千葉の闘う決意を明らかにした。「戦争に動員されるのが労働者なら、戦争を阻止する力があるのも労働者だ。今こそ日本の労働運動の再生、階級的労働運動の建設をかちとらなければならない」と述べ、職場に渦巻く不安や怒りを全力で闘いに組織することが、組織拡大の展望を切り開く」と3月ダイ改ー26春闘、ストライキを構えて闘う決意を語った。

来賓挨拶では、三里塚反対同盟・萩原富夫さんは、三里塚闘争60周年を共に闘ってきたこと、動労千葉を支援する会の故山本事務局長の大きく元気な声に励まされたこと、市東さんの南台農地の決戦と3・29芝山現地集会への

結集が訴えられた。

関委員長と佐藤家族会長が鏡開きをおこない、永田OB会長が乾杯の音頭を行った。つづいて、顧問弁護士・藤田弁護士、家族会・佐藤会長、情報労連千葉県協議会、支援する会・織田事務局長、久留里線と地域を守る会・三浦代表、社民党千葉県連、葛飾労組連、婦人民主クラブ全国協などが連帯のあいさつを行った。

恒例のビンゴ大会の後、動労千葉からの決意表明が行われ、中村委員長は1047名解雇撤回に向けて1月23日の第2回控訴審への結集を訴えた。幕張・北嶋支部長からは検修外注化阻止に向けた決意が、千葉機・樋口副支部長は派出化粉碎の決意を、そしてCTSからは3名の組合員が26春闘勝利への決意を語った。関委員長の団結ガンバロー三唱で旗開きは大成のうちに終了した。

追悼 山本弘行事務局長

事務局次長 織田陽介

昨年12月16日朝、入院先の病院で山本弘行事務局長が息を引き取りました。享年84歳。病気を吹き飛ばして、あのパワフルな声が聞けると誰もが思っていただけに、未だに信じられない気持ちです。

年末に山本さんのご家族とお会いし、お話を聞くことができました。自身の健康も後回しにお連れ合いの体調快復に尽力したと娘さんからも尊敬され、「小学校の時にマルクスの本を渡された」「孫に『高市に警戒せよ』と病床で語った」など社会変革にかけるエピソード



2025年 3月春闘スト

ードも。草木を育てるのが好きだったこと、ビラやレジュメなどを全てフアイリングしている几帳面さも目の当たりにし、山本さんの人となりを改めて知ることとなりました。

山本さんは、勤労千葉を支援する会の事務局長として、勤労千葉の労働運動に文字通り人生をかけた人です。そして、勤労千葉の国際連帯委員会にも全面的に責任を取り、世界中の労働運動・社会運動の活動家から尊敬されています。夜中まで海外とメールのやり取りをする生活を過ごしていたようでした。

山本さんは、熱い怒りの人でありました。許せないことには声を張り上げて怒る。JR東の横暴、政府の攻撃、外国人差別政策には特に激しい怒りを誰よりも先頭に立って表明する。

また、人に親身になり、問題の解決にも兄貴肌で当たってくれる優しく頼れるリーダーでした。困難にぶつかるたびに電話や飲み屋で話をしましたが、

「困ったなあ」と深刻になり過ぎず、常に明るさを失わない人でもありました。元々の人柄に加え、「労働者は闘う中であらゆる問題を解決していける」という絶対的信頼がそうさせたのでしよう。

私的なことを語らなかつた山本さんですが、反原発の機関誌のためにインタビューを行ったことがあります（2015年秋）。そのインタビューからも引用しながら、皆さんの中にある山本さんの人生を少し振り返ってみたいと思います。

戦争と核への怒りが原点に

「親父は満州鉄道に雇用された鉄道医でした。731部隊への勧誘を拒否して日本に帰され、富山の日赤で働いていて、徴兵された。広島に運ばれて爆心地で死んじゃって。疎開先から、お袋は『とんでもない爆弾が落ちたよ』って、探しに行つて入市被曝。赤い斑点がいっぱい出て、髪の毛も落ちるし。食えなくて、お袋の実家の千葉県三里塚岩山部落で農業をはじめた。お袋はひどいリウマチになって。農業もできなくなつて、東京に出た。大

学に入ったら1960年（笑）。連日騒然として、授業で席にいたら『お前何してんだ』という感じ（笑）。戦争、核への恐れも含めて、絶対繰り返し返さなという気持ちがあったな」

お父さんを原爆で亡くし、お母さんも入市被曝によって原爆症に苦み、母方の実家は三里塚。60年安保闘争は、山本さんのような反戦・反核の原点を持つ学生たちの当たり前の行動でした。山本さんは、毎年欠かさず8・6広島に参加していました。こうした原点が、アメリカの戦争で息子さんを亡くされた「反戦の母」シンディ・シーハンさんとの絆も作りました。

「10・21国際反戦デー闘争に参加してすぐバンングラディッシュに仕事で飛んで。当時は東パキスタン。西に収奪される関係があつて独立戦争、ゼネストになる。竹で武装して、スタートしたばかりのプラントを止めるとくるわけ。事務所に逃げ込んでロッカーたおして今度は守る方（笑）。」

東洋エンジニアリングに勤めていた時には、プラントの輸出で海外赴任も経験し、日本は侵略し収奪する側なんだという意識も強烈に感じとるようになりました。外国人差別、入管問題に

こだわって闘っていたのも印象的です。

動労千葉と共に生き闘う

「労働者になったのが64年。当時は工学部出なんて引く手あまた。化学プラント、造形美も含めて、きれいじゃ。プラントのエンジニアリング会社に、『組合ありますか。活発でしょうか』なんて聞いてさ（笑）。東洋エンジニアリングへ入って、事業所がたまたま津田沼だったの。動労千葉がストに入ると声まで聞こえる近さ。これが運の尽き（笑）。66年に三里塚芝山連合空港反対同盟ができる。親戚がいて集会に行くと『弘行でねえか』なんて。悪さばかりしてたから『やべえなあ』と（笑）。それから三里塚にはずつとかかわるようになる。67年10・8羽田闘争があり、動労千葉は機関助手廃止阻止闘争。線路に座り込んだりさ。69年の東大安田講堂から動労千葉のバリケードストライキで機動隊とぶつかってさ」

山本さんの人生を決定づけたものこそ、動労千葉との出会いでした。66年に開始された三里塚闘争、さらには70年を前後する安保・沖縄闘争に、青年労働者として立ち上がり、千葉県反戦

の議長は故・中野洋動労千葉顧問でした。とりわけ「滝口君を守る会」運動の立ち上げから関わった一人で、動労千葉の組合員とお酒を飲みかわし、組合員一人ひとりと仲良くなったといいます。動労千葉は、動労本部と労働運動の路線をめぐる激しく対立を開始し、本部の暴力的「オルグ」がくると聞けば「半休」をとって職場を飛び出し、動労千葉とともに闘いました。まさに動労千葉が闘う労働運動へと変貌していく過程とともに闘いながら、自らの職場でも非正規労働者の権利をめぐる闘いを必死に闘いました。

動労千葉の79年分離独立、そしてジェット燃料貨車輸送阻止闘争の支援を経て、分割・民営化反対闘争では、「鉄路に生きる」上映運動とともに1億円基金運動を展開、この運動を土台に、動労千葉を支援する会が生まれていきました。「戦後政治の総決算」をうたう中曽根の労働運動解体攻撃に対し、二波のストライキをもって真正面から闘った動労千葉のインパクトこそが、日本の労働運動の再生の力になるという確信のもと、動労千葉への支援を日本の労働者の中に広げていく。支援する会立ち上げ、運営委員会発足を経て、

事務局長として支援する会運動を訴え続け、動労千葉の行動や会議にはいつも山本さんの姿がありました。

世界にはばたこう

動労千葉の国際連帯

「2002年10月の団結まつりで、アメリカのステイブ・ゼルツァー氏がぶらぶらと動労千葉のテントに入ってきて来ちゃった。それまでは『国際連帯』なんて文字にすぎなかった。彼がしゃべるのは民営化のことで、『privatization』と何回も言う。その意味を知らなくて『プライベートな話？』と（笑）。『レイバーフェスタに來ないか』と、2003年に訪

米して、ILWU（国際港湾倉庫労組）との関係もできて。2003年は8・15集会への韓国労働者の参加をきっかけに訪韓する。イラク開戦の年で、動労千葉が

90時間ストライキをつつた。そのインパクトで2つの国際連帯が切り開かれた」

この団結まつりでは、山本さんは動労千葉のテントだけ誰も来ない隅に追いやられたことに猛然と抗議し、目立つ場所に変わったテントでゼルツァーさんと出会う。民営化攻撃に団結して立ち向かった「動労千葉の奇跡」が世界にはばたいた瞬間でした。動労千葉自身も外注化攻撃との闘いを脱退者を出しながら必死に展開している過程で、国際連帯は動労千葉の団結にとつても



大きな力となっていました。社会全体のことを考えてこそ労働者は団結できる。こうした階級的労働運動に不可欠な国際連帯を山本さんは全力で担っていきま

した。ブラジルのコンルータスという労働組合の大会に動労千葉が呼ばれ、照岡さんと佐藤正和さんと共に私もブラジルにい

きました。昼ごろ大会会場に着くや否や、山本さんは「よし、ビールを飲もう！」店にいた日系の人が話しかけてきたり、ブラジルの食を満喫した記憶があります。その勢いで大演説。山本さんは心を通わす英語は企業活動のものとは全然違うんだと苦闘したようですが、現地に溶け込み、ノリも含めて我がものとして交流するような山本さんのスタイルが国境を超えて心を通わせる力であつたように思います。

3・11東日本大震災と福島原発事故では、動労千葉が階級的な目線で「人災だ」と明確に断じる見解と活動が世界から注目されました。「動労千葉震災レポート」の英訳は数百の相手にメールし、万単位の人に転送され読まれました。

「かつて植民地支配された国の労働者と、支配した国の労働者がこれほど一つになって信頼し合って闘っているのは本当にすごいことだ。誰か日本人で、誰か韓国人たが見分けがつかなくらい渾然一体となっている。どうしてこういうことが実現できたのか」（ドイツ・レイハートネットの代表）と言われるほどに動労千葉の国際連帯は発展してきました。近年では、AGC（旭硝子）

「労働運動は人の心であり、組織であり、団結。 人間と人間の関係がいかに結ばれるかが勝負」



の韓国工場における非正規労働者の解雇に対し、支援共闘を結成して9年間支援し、山本さんは毎月東京駅前の本社に申し入れや情宣活動を展開し、全員職場復帰の勝利を勝ち取った時には、自分のことのように喜んでいました。韓国、アメリカ、ドイツ、ブラジル、トルコ、イタリア、中国や台湾など、関係は広がり、国際結婚した仲間もいます。

「国際連帯闘争というのは、いろんな国の労働者がいろんな歴史をかかえながら、お互いの接点を拓こうと努力する。相手の歴史を勉強しなければなんないし、自分をわかってもらわなきゃ

なんない。労働者が今の現実の中で欲しているものは何かをお互いの話の中でつきとめていける。未来を拓くためにどうしたらいいのかとみんな苦闘している。それを共有していく中でしか戦争も止められない。みんな同じ事考えてるなって最終的には行き着く。そこが非常におもしろいよね」

国際連帯の具体的な交流の中から、階級的な考え方が生まれていく。国際連帯を担った山本さんの思いがそこにあります。

意思受け継ぎ国鉄闘争の勝利を

2025年はいくつもの困難を闘って闘い抜いて突破してきた1年でした。第一回公判で「一発結審」を打ち破った国鉄1047名解雇撤回裁判。原点到に立ち返って呼びかけることとなった11月集会。一つひとつの困難を悩み、先頭に立って進み続けた山本さんの存

在無くして、ここまでくることはできませんでした。だからこそ、11月集会に共に参加することができなかったのは残念でなりません。

「労働運動は人の心であり、組織であり、団結。人間と人間の関係がいかに結ばれるかが勝負」。

困難から逃げず、希望を持ち続ける山本さんの信念はここにあります。山本さんの代わりをすることは不可能ですが、運営委員が束になってでもその穴を埋め、国鉄闘争の勝利を絶対に切り開きましょう。山本弘行さん、本当にありがとうございました。



2013年8.22 鉄建公団訴訟控訴審 東京高裁前

ＪＲ東は、久留里線廃線計画を撤廃しろ！

9148筆の署名を提出

久留里線（久留里～上総亀山間）の廃線化をめぐり、沿線住民による必死の反対運動が大きく動き出している。

「亀山の会」が結成され、

地域をあげての署名活動！

久留里線と地域を守る会は、9月の幹事会で久留里線の廃線に反対する署名運動を取り組むことを決定し、久留里線沿線、とくに廃線対象となっている久留里～上総亀山間（上総地区）を重点的に行うこととし、それ以降約3ヶ月間にわたり集中的な署名獲得運動を展開してきた。

この運動を受けて亀山地区では新たに「久留里線の存続を求める亀山の会」が発足し、そこが中心となって亀山地区での署名活動が取り組まれ、亀山在住1182人中859人（73%）からの署名を得るなど、文字通り地域をあげての署名活動が行われてきた。

さらに、君津市内を中心に各種イベントや駅前での署名活動が連日行われ、第1次集約時点で個人署名5116筆、

地域を守る会は、12月16日にＪＲ千葉支社、同17日に君津市に対して署名提出行動を行った。とくに、君津市への署



三浦代表から君津市の担当者に9148筆の署名が手渡された(12月17日)

インターネット署名4032筆、合計9148筆の署名が集まった。

これを受けて久留里線と地

名提出には、亀山地区をはじめ沿線地域から多数が参加し、この署名に込められた意味や思い、久留里線の存続が地域にとっていかに重要かなどが次々に訴えられ、最後に三浦久吉代表から市の担当者に署名が手渡された。

また、署名提出にはマスコミも多数駆けつけ、大きく報じられる状況であった。

「地域をあげた取り組みが

力関係を作った」三浦代表

2月22日、君津市役所において、「君津市地域公共交通会議」の第3回会合が行われた。当初は、この会合で久留里線の廃線バス代替が「承認」されるのではないかと危惧されていた。久留里線と地域を守る会を中心に傍聴する中、君津市からバス路線の検討結果等が説明され、ＪＲは廃線手続きの説明を行ったが、議論は継続となった。

これを受けて久留里線と地域を守る会の三浦代表は、「地域をあげて署名を取り組んだ力が現時点での『承認』をさせない力関係をつくった。さらに運動を続け、廃線阻止まで闘いぬく」との決意を明らかにした。廃線阻止へさら闘いぬこう！